

# 第17回 古流武術演武大会

入場無料

参加流派 道場

吉野武術研究所(神傳不動流体術)

竹内流広島支部(竹内流)

盛武館尾道道場(不遷流柔術)

作心館道場(中村流抜刀道)

田武道館(天心古流拳法)

盛武館本部(不遷流柔術)

静空館(片山伯耆流柔術)

天神明進流柔術 不動智心流白打

広島大学体育会古武道部(竹内流)

高津武道館(不遷流柔術)

円心流本部(円心流居合据物剣法)



日時:平成22年9月5日(日曜日)

午前10時50分より午後1時まで

場所:済法寺 広島県尾道市栗原東1丁目15-6

主催:古流武術連合会

主管:不遷流盛武館尾道道場 広島大学古武道部

後援:尾道市教育委員会 中国新聞社

題字:唐澤紀博 画:高橋宏滋



## 会長挨拶



本日ここに、第17回古流武術連合会演武大会を迎えることとなりました。これもひとえに皆様方の御尽力の賜物であり、心より御礼申し上げます。

今回は本来の奉納演武の形となり、ここ尾道の地、済法寺にての開催でございます。御存じのように、この済法寺はげんこつ和尚で有名な不遷流流祖・物外和尚のお寺であり、国内外をとわず混沌とした現在であればこそ、原点にかえって静かに物外和尚に演武を奉納することは、まことに意義あることと思います。このお寺で心を強くし堂々と演武されますよう、会員一同期待しております。

今や日本の伝統古流武術は世界各国で認められ、実技面でも一部の流派を除いて、正確に世界各地で継承されようとしております。グローバリズムは経済にのみ限られた現象ではなく、すでに文化もグローバリズムとなってまいりました。古流武術は精神面を昇華しつつ技を磨き、文化としての武術が意識されるべき時期であります。

残念ながら、日本人は国の無形文化たる古流武術の価値の理解度が極めて低く、継承の困難さは現実になってまいりました。その意味でも、個人各流の利益にとらわれることなく、素晴らしい友人関係で形成された古流武術連合会の価値は絶大なものであります。当連合会は何の見返りも求めない会として活動しており、自己の心の奥に自らの世界を求め、あらゆる方向に自己を練磨し続ける組織の集合体であります。

この第17回大会を機に、古流武術連合会の心の結（ゆい）とお互いの尊敬とが深まることを期待しつつ、挨拶とさせていただきます。最後になりましたが、絶大な御助力をいただきました済法寺御住職・近藤如生様に心底より御礼申し上げます。

古流武術連合会会長  
中島篤巳

## 実行委員長挨拶



第17回古流武術演武大会が尾道市・済法寺に於いて開催されることに対し、心よりお慶び申し上げます。

ここ済法寺は、江戸末期に物外和尚が道場を開いた古武道・不遷流柔術発祥の地であり、当時は西日本一帯から絶えまなく武芸者が訪れていたと伝えられる日本武術の故地でもあります。物外和尚没後140年あまり、この場所に他流の武術家が訪れて武技を試みるということを聞きませんでした。このたび各地の数多くの武道・武術を愛する方々をお迎えすることができ、物外和尚の武術に縁のある者の一人としても感無量で、感謝に堪えません。

さて、各流の古武道は、現在世界中で行われている現代武道の原点であり、その技と心は過去から現在まで絶えることなく脈々と継承されてきました。現在のスポーツ競技全盛の時代にあつて、礼節を重んじ心身を磨き上げる伝統ある日本の古武道を伝承することが、今後の日本と世界にとってのかけがえない文化的遺産となることと確信します。

この大会が毎年絶えることなく開催されてきたことは、各流派・各道場の皆様の日ごろの修練と古武道への情熱の賜物だと思います。この大会が、皆様の日頃の修練の発表の場であるとともに、一般の方々が日本の伝統文化に興味・関心を抱く機会となって頂ければ幸いと存じます。

最後に、各流派、大会関係者の皆様には演武大会開催にあたり多大なるご協力を賜り厚くお礼申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

第17回古流武術演武大会実行委員長  
唐澤 紀博

# 第17回 古流武術演武大会 大会次第

司会・進行 広島大学体育会古武道部

## 開 会 式 10:50～

- 役員・演武者入場
- 越天楽・国歌 演奏 篠 笛 作心館道場 夏目俊雄
- 開会 の 挨拶 古流武術連合会会長 中島篤巳
- 注 意 事 項 演武大会実行委員長 唐澤紀博
- 役員・演武者退場・移動

## 演 武 11:00～

0. 演武始 四方切 (田武道館)
1. 広島大学古武道部A (竹内流)
2. 盛武館尾道道場 (不遷流柔術)
3. 竹内流広島支部 (竹内流)
4. 吉野武術研究所 (神傳不動流体術・不遷流柔術)
5. 田 武 道 館 (天心古流拳法)
6. 広島大学古武道部B (竹内流)
7. 盛 武 館 本 部 (不遷流柔術)
8. 静 空 館 (片山伯耆流柔術・天神明進流柔術・不動智心流白打)
9. 高 津 武 道 館 (不遷流柔術)・・・・・・以上第Ⅰ部 (本堂)
10. 作 心 館 道 場 (中村流抜刀道)・・・・・・第Ⅱ部 (境内)
11. 広島大学古武道部C (竹内流)・・・・・・第Ⅱ部 (境内)
12. 円 心 流 本 部 (円心流居合据物剣法)・・・・第Ⅱ部 (境内)

## 閉 会 式 12:50～

- 役員・演武者入場
- 閉会 の 挨拶 古流武術連合会副会長 内谷英治
- 役員・演武者退場
- 記 念 撮 影

## 懇 親 会 13:00～

場所:「済法寺本堂」。〒722-0025 尾道市栗原東一丁目 15-6、☎0848-22-7012  
演武会場と同じ。本冊子巻末の地図をご参照ください。

### ※ 注 意 事 項

- 演武会場では飲食禁止です。
- 内は禁煙です。
- 閉会式後の写真撮影は稽古着でお願いします。

## 竹内流

# 広島大学体育会古武道部

主将 和田 七海

### 流派の由来

竹内流は、戦国時代後期の天文元年（一五三二年）に美作国一ノ瀬城主竹内中務大輔久盛なかつかきだゆうによって創始された。

久盛の子久勝は父の業を継ぎ、武者執行と名付けて出立、全国を遍歴して真剣勝負を流儀の中に補う。文禄元年秀次関白から常陸介に任じられ、元和六年春流儀を後水尾天皇のえいらん叡覧に供し、近衛関白から日下捕手開山の御綸旨を賜り、紫繩を免される。

久勝の子久吉も祖父の業を継ぎ、寛文三年鷹司関白から加賀介に任じられて日下捕手開山の御綸旨を賜り、捕手腰廻とりてこしのまわり小具足を中心とする流儀を完成させる。

以後、竹内家相伝を家憲とし、代々創流当時の心と技の原形を一子相伝により伝え、四百七十数年を経て現在に至る。

### 流派の特徴

竹内流は、小太刀（脇指）や拳、捕縄などを駆使する組討を中心に構成された総合武術である。その神髄『当流を五体に配り見る時は組討こそは流の心よ』と、極意心要歌に詠まれている。この組討は捕手腰廻小具足を始めとし、徒手空拳の羽手はで（拳法体術）、捕縄術、活法などに発展する。特に羽手では、敵の急所（つぼ）へ迅速確実に当て身をし、これに続いて投げ技や留め技などを展開する。

### 活動状況

稽古は週二回、水曜日 18 時～21 時に東広島運動公園柔道場にて竹内流東広島道場との合同で、土曜日 13 時～16 時に広島大学西体育館柔道場にて行っています。

また岡山県古武道祭、古流武術連合演武大会などの公式大会への参加や大学祭などの学内行事で演武をしています。

### 連絡先

主将： 和田 七海

電話： 090-8067-4396

メール： hirodai\_kobudoh@yahoo.co.jp

HP：

[http://www.geocities.jp/hiro dai\\_kobudoh/](http://www.geocities.jp/hiro dai_kobudoh/)



## 不遷流

# 盛武館 尾道道場

代表者 唐澤紀博

### 流派の由来

不遷流（ふせんりゅう）柔術は「拳骨和尚」として有名な武田物外（たけだ・もつがい）が、幕末に尾道・済法寺を道場にして創始した武術流儀です。不遷流は大変好評を博して、当時は「門弟三千人」と称されました。

2代目以降は2代目武田禎治、3代目田辺虎次郎と主に岡山で継承されています。その後、明治中期になると関東地方から講道館柔道が日の出の勢いで台頭してきましたが、柔道の猛者達も4代目田辺又右衛門の寝技には全く歯が立たなかったと伝えられています。

不遷流はその後脈々と継承され、現在岡山県津山市の井上一利師範が7代目宗家として、物外和尚をはじめ多くの先達の妙技を現在も伝えています。

### 流派の特徴

不遷流は幕末生まれで、古武道の中では最も新しい部類に入ります。難波一甫流をもとにして他の多くの流派の長所をとって作られた流派で、体系の奥には他の流派からとった極意技をそのまま保存しています。

また、総合武術なので柔術（体術）だけでなく、十手・鎖鎌・棒・杖・剣術・居合・薙刀・長柄鎌等を含みます。

### 活動状況

毎週土曜日の午前中から午後にかけて、尾道市千光寺裏にある勤労者スポーツセンターの2階で稽古しています。他に、日曜日に月1回程度、津山市にある本部道場で稽古をしています。

今年の演武会・行事等への参加状況は以下の通りです。

- ① 「古流武術演武会」 (東広島市) 9月
- ② 「尾道灯りまつり 演武披露」 (尾道市済法寺) 10月
- ③ 「げんこつ茶会」 (尾道市済法寺) 11月

### 連絡先

代表者： 唐澤紀博  
電話・FAX： 0848-37-9289  
携帯電話： 080-5238-9289  
メール： karasawanori@go9.enjoy.ne.jp  
H P： <http://ww7.enjoy.ne.jp/~ai33/>



# 竹内流 広島支部

支部長 中川平介

## 流派の由来

竹内流は、天文元年（1532）美作国一ノ瀬城主竹内中務大輔源久盛によって創始された。久盛の創始した流儀は、三代にわたって体系化された。二代目久勝は20歳で「必勝五ヶ条」の技を会得し、23歳で諸国武者修行に出かけ、各地での真剣勝負を「八ヶ条之事」に集大成した。そして、三代目久吉が諸国武者修行によって兵法自在の奥義を極め、腰廻小具足を始めとする流儀を完成させるに至った。

なお、八代目久愛の意志により、養子久雄に藤一郎家を継がせ、嫡男の久種を分家させ、藤十郎家を設けて九代目を継がせることとし、流儀の血脈が絶えるのを防ぐ措置が講じられた。そして創設以来478年を経た今でも、一子相伝により流儀の技と心が両竹内家に連綿と継承されている。

## 流派の特徴

竹内流は、戦国時代の組討、捕手腰廻小具足を中心にした総合武術であり、柔術の源流とも呼ばれている。腰廻小具足で使う小刀は、流祖久盛の神伝捕手の伝に因み、1尺2寸の脇差・鎧通・前差を常用する。羽手（拳法体術）は当て身を第一とし、これに続いて投げ技や留め技を展開する。また、捕縛の縄は、二代目久勝が近衛閑白から賜った冠の紐の色に因んで、紫縄を一子相伝で使うことになっている。

## 活動状況

竹内流広島支部には東広島道場と福山道場があり、東広島道場では東広島運動公園武道場で毎週月・水曜日 18時～21時、福山道場では福山市御船町大道館で毎週木曜日 18時30分～21時に稽古を行っている。小学生から60歳代までの老若男女が小具足、棒術、柔術、居合、剣法齊手など、体力に合った技を中心に稽古している。

京都、宮島、岡山などで開催される古武術演武会に参加している。

## 道場詳細

ひろしままナビネット：<http://www.manabi.pref.hiroshima.jp/>

ひろしま情報aネット：

<http://www.a-net.shimin.city.hiroshima.jp/www/contents/1192596515835/index.html>

東広島道場：<http://shuminavi.net/schools/martial-art/jujitsu/hiroshima/>東広島市/

福山道場：<http://shuminavi.net/schools/martial-art/jujitsu/hiroshima/>福山市/

## 連絡先

○東広島道場長：中川平介

電話：082-425-1524

メール：[naka1524@enjoy.ne.jp](mailto:naka1524@enjoy.ne.jp)

○福山道場長：玉井重克

電話：084-972-5172

平成21年8月流祖祭  
(岡山市建部町、本部道場にて)



# 吉野 武 術 研 究 所

吉野晴雄

## 流派の由来

もと神伝不動流体術は、劔、棒、槍、体術を総合していた。  
流祖は出羽国朝日岳鼠谷の住人、朝日奈五郎源吉平。その師は伯耆の国大山、名和神社宮司の重村掃部兵衛正秀。名和一族重村掃部允五郎兵衛十二代の末裔である。  
諸国武者修行中、吉平を見込んで教えた。吉平の門人、大戸根左近康正は、神伝不動流の小太刀の達人で、体術や投劔の名人であった。

### 【神伝不動流体術の系譜】

祖 朝日奈五郎源吉平→大戸根左近康正→大戸根源八康秀→大戸源五郎康平→淡路入道近康  
戸田左近之正近正→戸田真龍軒正近→高松寿嗣翊翁→藤谷昇昌利→吉野晴雄利寿

## 流派の特徴

神伝不動流体術史論には、「錬磨は、一を千回繰り返し、始めて成る事なりて、劔を忘れ腕を忘れ無心となり、我無き事を得て始めて悟りを得る也」と教えている。

## 活動状況

各地で開かれる演武会や、奉納演武に参加する。  
毎年古流武術連合会主催の演武会に参加する。  
稽古は主に週一回 木曜日に県のスポーツ会館で、20時～21時に行い、日曜日にも不定期に行っている。

## 連絡先

代表者: 吉野 晴雄  
電話・FAX: 082-856-0331  
メール: yoshino@fch.ne.jp  
H P: <http://members.fch.ne.jp/yoshino/>



---

天心古流拳法

# 田 武 道 館

代表者 内谷英治

---

## 流派の由来

日本伝天心古流拳法

中興の祖 上野辰右工門隆幸

上野家は代々伊賀郷士伴氏より出て上野氏を継ぎ、天正年間信長の伊賀攻略に破れ、一族と共に故郷を逃れ播州赤穂に住。家伝を太古流と称して何流より出たか不詳なり。元祖上野辰右工門隆幸により神道天心流拳法を創成し中興の祖となる。

8代宗家上野貴天心より流れ位継。

72手の技に加え天心流挫も72手。

## 流派の特徴

小さな動きの中に気・体の流を基調とした技で、指先の先まで気を流し技を無理なく繰り出す様指導している。

## 活動状況

毎週水曜日と金曜日

6：30～9：00

## 連絡先

代表者： 内谷英治

電話・FAX： 082-888-3300

# 盛武館本部

支部長 井上一利

## 流派の由来

拳骨和尚こと武田物外和尚（又は不遷和尚）を祖とする。不遷というのは諱（いみな）で物外というのは号である。

寛政六年甲虎（1796年）三月三日に伊線（愛媛県）松山藩士三木兵太信茂の一子として生まれた（一説には松山藩主松平安岐守の子という。）武田信玄九代の嫡孫ともいわれるが事情があって六歳の時、山越の竜泰寺の祖燈和尚に預けられ義育された。生来の大力はそのころから現れて、七歳の時十二貫（45Kg）の土俵を差し上げて衆人を驚かせた。

十二歳の時出家して、広島市中島町に現存する曹洞宗伝福寺の観光和尚の弟子となり、十五歳から広島国泰寺僧堂に入り勉学に励んだ。十九歳の時大阪に出て修行したが、それから三十歳迄天下を周遊して仏典、文武の道を修行、三十一歳となって伝福寺に帰山、観光和尚の推薦によって尾道の済法寺の住職となった。物外は十二歳から十九歳迄満八ヶ年芸州藩（広島）の体術師範、高橋猪兵衛尉満政について修行し、難波一甫流の免許皆伝を得た。物外和尚は、この流派のほかに、揚心流、洪川流、起倒流、竹内流、柳生流、関口流などを習い、それらの長所をとって「不遷流」と名付けた。

流儀の形としては座合捕（居捕）十二形、投げ業十八形を「不遷流の三十形」と云う。

### 【不遷流盛武館系譜】

元祖 物外和尚 — 二代 武田貞治義孝 — 三代 田邊虎次郎義貞 —  
四代（盛武館）田邊武四郎義光 — 五代 中山英三郎義行 — 六代 中山 和 —  
七代 井上一利義継

## 活動状況

**本部** 七代宗家のもと週3回（18時～21時30分）と日曜日不定期に活動している

**総合武道館高津武道場 盛武館島根益田道場** 平成9年3月に開設以来、不遷流柔術・空手道を中心に稽古している。単に理論や形（かたち）としての技を稽古するだけでなく、如何に実用的、効果的であるかなどを追求し、日々の稽古に取り入れている。また、日本武道の特色である「術」から「道」への昇華と稽古を通じての人格、人間形成にも大きく寄与している。

稽古日 … 毎週水曜日 19:30～21:00

内容 … 不遷流 初伝、目録、杖術、十手術、  
他 その他、体術、武術の研究

## 連絡先

代表：井上一利 本部道場 岡山県津山市山北

660-8

電話：0856-23-0522

メール：marunaka@jn3.so-net.ne.jp

（本部：丸中秀格 宛）



### 流派の特徴及び由来

片山伯耆流柔術は豊臣家二代・三代の武術指南役であった片山伯耆守久安を流祖とする小具足であり、正しくは「片山流小具足」である。久安は大坂落城により周防国岩国に下り、吉川藩主・吉川広家に客分として吉川家に逗留した。これからの久安の熟成期であり、また岩国と片山流との関わりの始まりでもある。

柔術部門を再興するにあたり、片山家十代当主・片山福男氏から「片山流」の呼称を勧められた。しかし「片山流」は柔術以外にも剣術、弓術、馬術其の他の総合武術を包括したものである。当方は柔術部門のみを片山家当主より受けたことでもあり、また伯耆流居合が伝承されている経緯もあり、居合の流派名にあわせて「伯耆流柔術」として活動した。平成十二年三月四日（土）に片山伯耆守久安の菩提寺である岩国市の瑞相寺にて「片山伯耆守久安三宮五十回忌」が挙行され、その時に、片山福男氏より「伯耆流柔術」「伯耆流居合」ともに「片山」を冠すように指示された。これにより流派名・伯耆流柔術は「片山伯耆流柔術」と改称した。

天神明進流柔術（兵法）は流祖が片山伯耆守久安とされ、片山流より分派して茨城県涌谷町に伝承されていた。五十六代小野寺正高宗家より前館長中島篤巳が五十七代を拜命し、静空館にて指導されている。

### 活動状況

活動は、岩国市にある武道場を借りて毎週水曜日、片山伯耆流柔術、天神明進流柔術、不動智心流白打の三流を中心に研鑽を重ねている。近年、イタリアとの柔術における交流をおこなっている。

### 連絡先

代表者 中島勘太

住所： 〒740-1428

山口県岩国市由宇町中央2-6-8

電話・FAX： 0827-63-0002

携帯電話： 090-1010-0512

メール： [kitakaze5049@ybb.ne.jp](mailto:kitakaze5049@ybb.ne.jp)



# 高津武道館

代表者 豊田篤志

## 流派の由来

拳骨和尚こと武田物外和尚（又は不遷和尚）を祖とする。不遷というのは諱（いみな）で物外というは号である。

寛政六年甲虎（1796年）三月三日に伊線（愛媛県）松山藩士三木兵太信茂の一子として生まれた（一説には松山藩主松平安岐守の子という。）武田信玄九代の嫡孫ともいわれるが事情があって六歳の時、山越の竜泰寺の祖燈和尚に預けられ義育された。生来の大力はそのころから現れて、七歳の時十二貫（45Kg）の土俵を差し上げて衆人を驚かせた。

十二歳の時出家して、広島市中島町に現存する曹洞宗伝福寺の観光和尚の弟子となり、十五歳から広島国泰寺僧堂に入り勉学に励んだ。十九歳の時大阪に出て修行したが、それから三十歳迄天下を周遊して仏典、文武の道を修行、三十一歳となって伝福寺に帰山、観光和尚の推薦によって尾道の済法寺の住職となった。物外は十二歳から十九歳迄満八ヶ年芸州藩（広島）の体術師範、高橋猪兵衛尉満政について修行し、難波一甫流の免許皆伝を得た。物外和尚は、この流派のほか、揚心流、渋川流、起倒流、竹内流、柳生流、関口流などを習い、それらの長所をとって「不遷流」と名付けた。

流儀の形としては座合捕（居捕）十二形、投げ業十八形を「不遷流の三十形」と云う。

### 【不遷流盛武館系譜】

元祖 物外和尚 — 二代 武田貞治義孝 — 三代 田邊虎次郎義貞 —  
四代（盛武館）田邊武四郎義光 — 五代 中山英三郎義行 — 六代 中山 和 —  
七代 井上一利義継

## 活動状況

平成9年3月に開設以来、不遷流柔術・空手道を中心に稽古をしている。単に理論や形（かたち）としての技を稽古するだけでなく、如何に実用的・効果的であるかなどを追求し、日々の稽古に取り入れている。また、日本武道の特色である「術」から「道」への昇華と稽古を通じての人格・人間形成にも大きく寄与している。

稽古日…毎週水曜日 19:30~21:00

内容…不遷流 初伝・目録・杖術・十手術 他 その他 体術・武術の研究

## 連絡先

館長：豊田篤志

電話：0856-23-4749

メール：den-bu-t@iwami.or.jp

H P：ホームページ 検索ワード「高津武道館」



## 中村流抜刀道

# 作心館道場

代表者 夏目俊雄

### 流派の由来

我々が、修行している抜刀道は、故 中村泰三郎先生が、伝授されて来た立抜刀法です。先生の合理的に修行していくことを目的とし、技術向上の為に「守破離」を教訓として流派を問わない真剣斬り刀法を修行しています。中村先生は昭和 14 年に陸軍戸山学校にて剣道、銃剣道、軍刀操法戸山流抜刀道の特別指導を受け、昭和 16 年に山形北部 18 部隊に入隊後、剣術特別教官を歴任されました。昭和 28 年に書道の永字八法から中村流抜刀道八方斬りを創案。昭和 52 年 全日本抜刀道連盟を結成し、戸山流、中村流抜刀道を伝授される。平成 11 年に国際居合抜刀道連盟を国際抜刀道連盟に改名し、現在に到っております。我々はこの国際抜刀道連盟の末席に列して居ります。

### 流派の特徴

中村泰三郎先生が伝授された戸山流、中村流抜刀道を主体とし、他流派の実戦刀法に適している所を取り入れながら稽古して、特に示現流の刀法を毎回かかさず取り入れています。刀を振る時、振り過ぎない様にできるだけ小さなスイングで斬ること、振りかぶりも剣が後に行き過ぎない様にすることを念頭に精進して居ります。

### 活動状況

我 作心館道場では週 2 日、立ち木打ち、横木打ちをやり、基本、組剣、型の稽古で真剣刀法を研究して居ります。

### 連絡先

代表者： 夏目俊雄

電話： 090-9419-0548



# 円心流居合据物剣法本部

増本孝和

## 流派の由来

円心流居合据物剣法は、戦国時代、北面の武士、速水長門守円心を唱導の祖とする。正親町天皇の御宇、近江国彦根の住、犬上左近將監長勝が、父の犬上兵庫永継から伝来の靈剣を授かって後、速水長門守円心から組討の術を習得、祖先からの伝書口伝をとりまとめたのが円心流居合据物の源流である。

この体術を母体とした旧来の剣法に讃岐高松の人、小橋庄兵衛が文政十年ごろ、神道無念流をとり入れ技を整理統合した。

二世は藤本林五郎、三世小橋日感は居合主流数流をとり入れ、従来の円心流居合据物の内容を更に一新した。四世は小橋日喜。現在大阪市阿倍野区で増本孝和が五世を継承している。

### 【系譜】

小橋庄兵衛正平 — 藤本林五郎 — 小橋日感 — 小橋日喜 — 増本孝和

## 流派の特徴

後敵対象の技が多く、また突き技を至極とする。抜刀の際の送り鞘・引き鞘、納刀の際の迎え鞘に特徴を有する。

## 活動状況

稽古日 火曜 午後 2～5時 アベノ西念寺  
木曜 午後 5～9時 //  
土曜 午後 5～9時 //  
日曜 午後 8～12時 //  
午後 5～9時 新大阪

- 古武道協会主催大会 年1～2度出場
- 当流主催大会 6月末 毎年行っている

## 連絡先

代表者： 増本孝和

電話・FAX： 06-6623-6309

# 演 武

順序	道場名 (流派名)	演武名 (種目)	称号・段位	氏 名
0	田 武 道 館	四方切	八 段	内 谷 英 治
1	広 島 大 学 体 育 会 古 武 道 部 A (竹内流)	小具足 " " "	初 段 初 段 初 段	小 林 成 二 岩 崎 翔 平 和 田 七 海 深 野 由 布 子
2	盛 武 館 尾 道 道 場 (不遷流柔術)	鎖鎌・柔術 鎖 鎌 十手・柔術 十手・柔術 柔 術	代表者 初 伝 初 伝 初 伝	唐 澤 紀 博 河 野 正 幸 則 信 孝 憲 高 橋 宏 慈 佐 藤 裕 樹
3	竹 内 流 広 島 支 部 (竹内流)	座 詰 " " " 小具足 " 柔 術 " 居 合 "	師範代 師範代 初 段 初 段 準師範代 三 段 三 段 初 段	中 川 平 介 玉 井 重 克 中 坪 孝 之 楠 木 俊 二 楠 田 正 則 赤 尾 安 啓 森 格 藤 田 拓 也 橋 本 佳 奈 川 重 静 恵
4	吉 野 武 術 研 究 所 (神傳不動流体術) (不遷流柔術)	体術・柔術 " " " " "	代 表 五 段 初 段 初 段 初 段 初 段 1 級	吉 野 晴 雄 品 川 武 司 里 吉 庸 平 梶 村 高 秀 品 川 巧 登 森 田 康 介 南 里 安 孝
5	田 武 道 館 (天心古流拳法)	柔 術 " " " " " "	八 段 四 段 三 段 三 段 初 段 初 段 初 段 三 級	内 谷 英 治 溝 手 啓 隆 谷 野 昭 谷 野 一 義 古 川 一 志 中 島 博 之 跡 田 寛 沖 山 宏

順序	道場名 (流派名)	演武名 (種目)	称号・段位	氏名
6	広島大学体育会 古武道部 B (竹内流)	座詰 " 拳張 " 前羽手 "	初段  初段	西嶋千恵 杉元勇太 小林隆史 山崎隆雄 平岡雄人 若林良
7	盛武館本部 (不遷流柔術)	柔術 " " " " 柔術 "	本部道場師範 上伝 上伝 初伝 初伝 名古屋道場師範 名古屋道場	井上大作 丸中秀格 和田健一 治郎丸政 森脇靖 井上清氣 小池幸治
8	静空館 (片山伯耆流柔術 ・天神明進流柔術 ・不動智心流白打)	柔術 " " " " 柔術(友情演武)	宗家 師範 師範 免許 免許 免許 柳生心眼流宗家	中島篤巳 井森純一郎 中島勘太 釘屋賢一 山田博之 塩谷庸治 稻毛仁人
9	高津武道館 (不遷流柔術)	体術 " " " " "	柔術達士五段 柔術錬士四段 柔術錬士四段 柔術初伝之位 柔術初伝之位	豊田篤志 安永正樹 竹下直行 樋口亮 依則和 豊田信吾
10	作心館道場 (中村流拔刀道)	拔刀道 " " "	八段 参段 初段 初段	夏目俊雄 吉田勝彦 吉田夏琴 吉田悠二
11	広島大学体育会 古武道部 C (竹内流)	体術 " 棒術 "	初段	谷和也 大多和浩 山上加弥 坂上奈嶺
12	円心流本部 (円心流居合据物剣法)	居合・据物 " " " " " 居合	宗家 皆伝師範 奥伝目録 奥伝目録 奥伝目録 奥伝目録 三段	増本孝和 濱先康彰 山口哲男 高槻幸雄 高山恭史 山村行仁 片野美佐

## 古流武術演武大会のあゆみ

第 1 回演武会	平成 5 年 5 月 29 日	広島市	護国神社	
第 2 回演武会	平成 6 年 5 月 29 日	広島市	護国神社	
第 3 回演武会	平成 7 年 5 月 27 日	広島市	護国神社	
第 4 回演武会	平成 8 年 5 月 25 日	広島市	護国神社	
第 5 回演武会	平成 9 年 5 月 24 日	広島市	護国神社	
第 6 回演武会	平成 11 年 10 月 31 日	東広島市	運動公園体育館	武道場
第 7 回演武会	平成 12 年 11 月 26 日	柳井市	市立武道館	
第 8 回演武会	平成 13 年 6 月 10 日	松江市	島根県立武道館	
第 9 回演武会	平成 14 年 6 月 16 日	東広島市	運動公園体育館	武道場
第 10 回演武会	平成 15 年 8 月 31 日	東広島市	運動公園体育館	武道場
第 11 回演武会	平成 16 年 8 月 22 日	東広島市	運動公園体育館	武道場
第 12 回演武会	平成 17 年 8 月 21 日	東広島市	運動公園体育館	武道場
第 13 回演武会	平成 18 年 9 月 3 日	東広島市	運動公園体育館	武道場
第 14 回演武会	平成 19 年 9 月 2 日	津山市	津山東武道場	
第 15 回演武会	平成 20 年 8 月 31 日	東広島市	運動公園体育館	武道場
第 16 回演武会	平成 21 年 9 月 13 日	東広島市	運動公園体育館	武道場
第 17 回演武会	平成 22 年 9 月 5 日	尾道市	済法寺 本堂・境内	



平成 21 年 9 月 13 日 第 16 回古流武術演武大会 (東広島)



## 祝 第 17 回古流武術演武大会

最高の工によって作られた  
剣道・柔道・空手道・合気道・居合道・  
居合練習刀・美術武用刀等、武道用品

# 明倫産業株式会社

本 社 〒543-0074 大阪市天王寺区六万體町 1-32 TEL(06)6772-3026(代) FAX(06)6772-3028  
京 都 店 〒606-8323 京都市左京区円頓美町 44-6 TEL(075)752-0002(武徳殿前)  
谷 九 店 〒543-0071 大阪市天王寺区生玉町 9-21 TEL(06)6772-3029  
武道具明倫  
阪急百貨店前  
フコク生命ビル店  
梅 田 店 〒530-0018 大阪市北区小松原町 2 番 4 号 TEL(06)6316-8811  
〒530-0001 大阪市北区梅田町 1 大阪駅前第 2 ビル 2F TEL(06)6346-0567

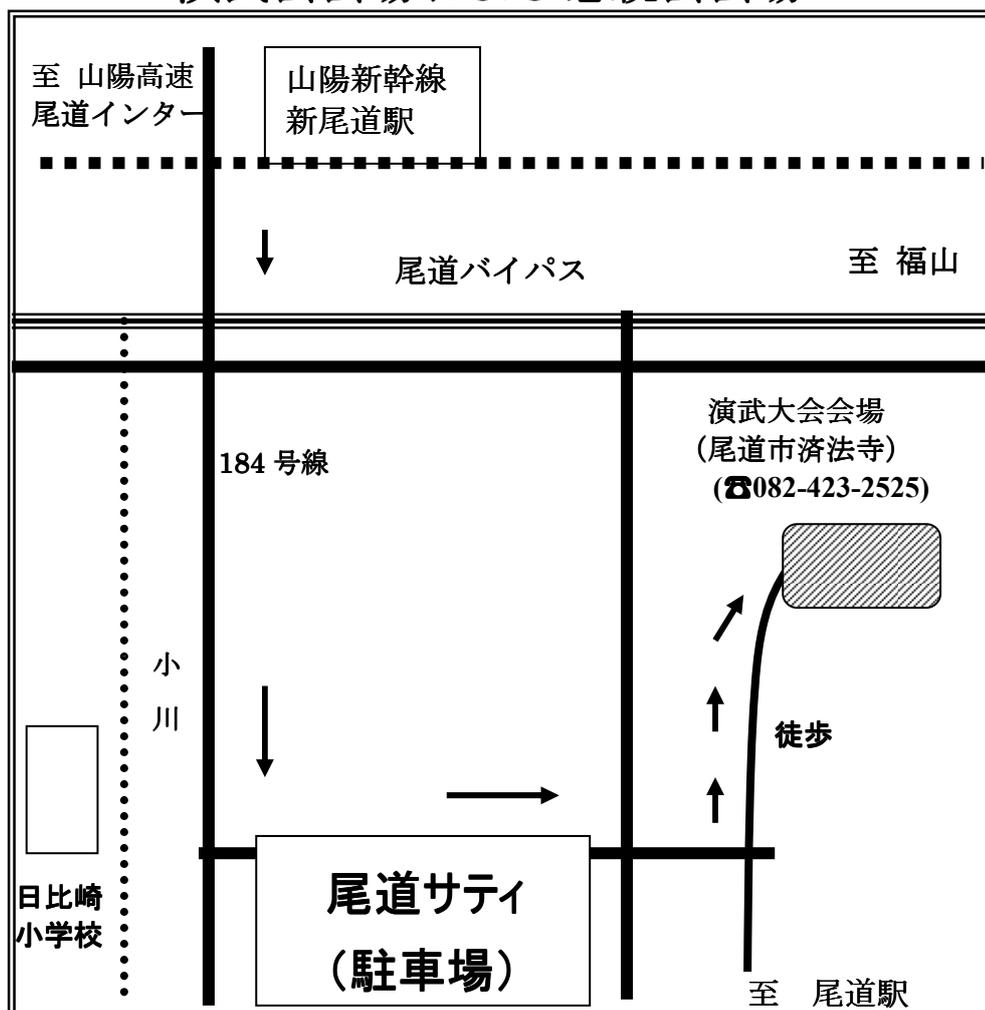
## 祝 第 17 回古流武術演武大会

# 広島大学体育会 古武道部 OB会

## 平成 22 年 古流武術連合会所属団体・代表者

道 場 名	代 表 者	道 場	役 職 名
不遷流盛武館本部	井上一利	津山市	名誉会長
静 空 館	中島篤巳	岩国市	会 長
不遷流盛武館尾道道場	唐澤紀博	尾道市	理 事 大会実行委員長
吉野武術研究所	吉野晴雄	広島市	名誉会長
田 武 道 館	内谷英治	広島市	副会長
竹内流広島支部	中川平介	東広島市 福山市	理事長 事務局
広島大学体育会古武道部	和田七海	東広島市	
武 楽 舎	野上 浩	広島市	常任理事
円心流本部	増本孝和	大阪市	常任理事
作 心 館	夏目俊雄	広島市	常任理事
高津武道館	豊田篤志	益田市	常任理事

### 演武会会場および懇親会会場



※懇親会は、演武終了後本堂で行います。